

研究業績一覧

作成日 2014年6月30日
今橋 映子

A. 著書 (単著)

1. 『異都憧憬 日本人のパリ』 (柏書房 1993年11月 484p)
(平凡社ライブラリー 2001年2月 605p)

[1994年度 第11回渋沢・クロード賞 (ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞) 受賞]
[1994年度 第16回サントリー学芸賞 (文学・芸術部門) 受賞]
2. 『金子光晴 旅の形象——アジア・ヨーロッパ放浪の画集』
(平凡社 1995年3月 168p)
3. 『パリ・貧困と街路の詩学——1930年代外国人芸術家たち』
(都市出版 1998年5月 500p)
4. 『〈パリ写真〉の世紀』 (白水社 2003年6月 630p)
[2003年度 第9回重森弘淹写真評論賞受賞]
[2004年度 第3回島田謹二記念学芸賞受賞]
[2004年度 日本写真協会賞 学芸賞受賞]
5. 『ブラッサイ パリの越境者』 (白水社 2007年3月 407p)
6. 『フォト・リテラシー ——報道写真と読む倫理』 (中公新書 2008年5月 256p)

B. 著書 (監修および責任編集)

1. 今橋映子監修「特集・写真 世界を映す装置」 (単独編集雑誌) (国際交流基金 『国際交流』
第88号 2000年7月1日、pp. 2-86)
2. 今橋映子監修『パリ憧憬——日本文学者の〈フランス〉体験』展カタログ (高知県立文学館、
2002年2月、56p)

3. 今橋映子編著『展覧会カタログの愉しみ』（東京大学出版会 2003年6月、264p）
4. 高階秀爾監修／今橋映子、ロバート・キャンベル、馬渕明子、山梨絵美子責任編集
『パリー九〇〇年・日本人留学生の交遊——『パンテオン会雑誌』資料と研究』ブリュッケ
2004年9月、591p）
5. 今橋映子編著『リーディングズ 都市と郊外——比較文化論への通路』（NTT出版
2004年10月、520p）

C. 著書（共著書）

1. 富田仁編『日本の創造力』第2巻(NHK出版会 1993年1月)（「清水卯三郎評伝」 pp. 224-248）
2. 芳賀徹編『文明としての徳川日本』（中央公論社 1993年10月）
（「江戸の記憶・都市の映像——リヴィエール・コバーン・福原信三」 pp. 589-611）
3. 日本比較文学学会編『滅びと異郷の比較文化』（思文閣出版 1994年3月）
（「異郷としての子供時代——北原白秋『わが生ひたち』」 pp. 265-282）
4. 鶴田欣也編『日本文学における〈他者〉』（新曜社 1994年11月）
（「他者としてのパリー遠藤周作『爾も、また』再読」 pp. 324-340）
5. « La dèche du Paris des années 30 : Miller, Brassai, Owell, Kaneko » dans *The Force of Vision 2 ; Visions in History* (Proceedings of the 13th Congress of the International Comparative Literature Association), University of Tokyo Press, 1995, pp.251-259.
6. 平岡敏夫・剣持武彦編『島崎藤村—文明批評と詩と小説と』（双文社 1996年10月）
（「都市論者・島崎藤村——パリ滞在と「公園」論の位相」 pp. 36-47）
7. 『上海パラダイス』（メタローグ 1998年5月）（「金子光晴の上海——忘却の淵」 pp. 108-127）
8. 宮本久雄・岡部雄三編『「語りえぬもの」からの問いかけ——東大駒場〈哲学・宗教・芸術〉連続講義』（講談社 2002年3月）
（「金子光晴「うれいの花」のありか——詩と絵画の彼方へ」 pp. 188-205）
9. ロバート・キャンベル編『読書の力』（講談社選書メチエ 2004年3月）
（「パリ写真集——言葉と写真の交響」 pp. 229-249）

- 1 0. 東京大学教養学部編『16歳からの東大冒険講座』（培風館 2005年9月）
（「写真と異文化理解—21世紀の対話のために」 pp. 70-95）
- 1 1. 甚野尚志編『歴史をどう書くか』（講談社選書メチエ 2006年4月）
（「写真史が生まれる瞬間 ウジェーヌ・アジェと仏・米現代写真の言説」 pp. 152-175）
- 1 2. ヘルマン・ゴチェフスキ編『知の遠近法 パースペクティヴ』（講談社選書メチエ 2007年4月）
（「都市写真におけるニュー・ヴィジョン モイ・ヴェール『パリ』をめぐって」 pp. 98-121）
- 1 3. 三浦篤編『往還の軌跡—日仏芸術交流の一五〇年』（三元社、2013年11月）
（「日本人のパリ写真—福原信三とピクトリアリスムの転換期」 pp. 145-160）

D. 写真集および展覧会カタログ所収論文

1. 『木村伊兵衛のパリ』（朝日新聞社 2006年7月）
（「木村伊兵衛と1950年代パリ写真」 pp. 240-244）
2. 『異邦人たちのパリ 1900-2005：ポンピドー・センター所蔵作品』展カタログ
（国立新美術館 2007年 2月）（「日本人のパリをいかに語るか—近年の美術展覧会の動向から」
pp. 198-202）
3. 『小林千古と1900年パリ・パンテオン会』展カタログ
（はつかいち美術ギャラリー 2011年10月）（「小林千古のパリ時代——〈パンテオン会〉の友情と
その意味」 pp. 5-7）

E. 学位論文（修士論文および博士論文）

1. 「異都憧憬——日本人のパリ」 東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻課程
修士論文、学術修士、1987年3月
2. Diplôme d'études approfondies (D.E.A=予備博士論文) : « Paris vu par les japonais : depuis 1862
jusqu'à nos jours » (à l'Université de Paris IV, le 20 mai 1990)
3. 「異都憧憬——日本人のパリ」 東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻課程
博士論文、博士（学術）、1992年7月

F. 学術論文（レフリー付き・単著）

1. 「ロマン・ロラン『内面の旅路』試論」
(東大比較文学・文化研究会『比較文学・文化論集』 第5号、1987年11月30日、pp. 5-54)
2. 「乖離の様相——高村光太郎のパリ」
(日本比較文学会 『比較文学』 第30巻 1988年3月31日、pp. 31-51)
3. 「眼差しの変貌——藤村『仏蘭西だより』のパリ」
(東京大学比較文学会 『比較文学研究』 第53号 1988年4月10日、pp. 28-52)
4. 「至福の時間——ピュヴィス・ド・シャヴァンヌと藤村」
(島崎藤村学会 『島崎藤村研究』 第16号 1988年8月20日、pp. 32-54)
5. 「ボヘミアン文学のパリ——岩村透『巴里の美術学生』新考」
(東京大学比較文学会 『比較文学研究』 第60号 1991年11月30日、pp. 134-154)
6. 「白秋のピエロ——世紀末アメリカのパリ案内小説の波及と詩的イメージの形成」
(日本比較文学会 『比較文学』 第34巻 1992年3月31日、pp. 99-112)

G. その他の論文 (レフリー無し・単著)

1. 「徒花の都——金子光晴『ねむれ巴里』論」
(岩波書店 『文学』 巻号不明 1989年5月10日、pp. 118-132)
2. 「マリー・バシュキルツェフの日記——ある女性画家の肖像」
(岩波書店 『文学』 巻号不明 1991年7月10日、pp. 124-131)
3. 「貧困と街路の詩学・1930年代のパリ——ミラー、オーウェル、ブラッサイ、光晴」
(岩波書店『へるめす』 第40号 1992年11月9日、pp. 18-38)
4. 「評伝・岩村透——明治期東京ボヘミアニズムの仕掛人」
(『アステイオン』 第30号 TBSブリタニカ 1993年10月1日、pp. 138-152)
5. 「エキゾチスムからユマニスムへ——木下杢太郎のパリ」
(筑波大学比較・理論文学会『文学研究論集』 第11号 1994年3月、pp. 3-17)
6. 「世紀末ボヘミアニズムの波動と永井荷風」(学燈社 『国文学 解釈と教材の研究』
[特集・明治世紀末の通路] 1995年9月、pp. 94-99)

7. 「明治日本における美術批評とラスキン——岩村透を中心に」 (ラスキン文庫『ラスキン文庫たより』 29・30号 1995年9月、pp. 4-6 1996年3月、pp. 1-3)
8. 「亡命地パリの意味——「パリ神話」研究Ⅰ」 (筑波大学文芸・言語学系『文藝言語研究—文藝編』第28巻、1995年9月、pp. 99-133)
9. 「宴のあと——フィッツジェラルド『バビロン再訪』」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第1回『アステイオン』 第39号 TBSブリタニカ 1996年1月、pp. 228-246)
10. 「危機の時代と〈都市論〉——亡命者ベンヤミン (「パリ神話」研究Ⅱ)」 (筑波大学文芸・言語学系『文藝言語研究—文藝編』第29巻、1996年3月、pp. 91-128)
11. 「西の果て——ヨーゼフ・ロート (上)」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第2回『アステイオン』第40号 TBSブリタニカ 1996年4月、pp. 270-292)
12. 「浮浪者の哲学——ヨーゼフ・ロート (下) 『^{クロニカル}聖なる酔っぱらいの伝説』」 (連載「パリ・1930年代の光と影」 第3回 『アステイオン』第41号 TBSブリタニカ 1996年7月、pp. 264-288)
13. 「フォト・ジャーナリズムの光芒——アンドレ・ケルテス」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第4回 『アステイオン』第42号 TBSブリタニカ 1996年10月、pp. 254-282)
14. 「都市の痕跡と写真——ブラッサイ『落書き』」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第5回 『アステイオン』第43号 TBSブリタニカ 1997年1月、pp. 236-262)
15. 「ブラッサイ『落書き』論——「パリ神話」研究Ⅲ」 (筑波大学文芸・言語学系『文藝言語研究—文藝編』第31巻、1997年3月、pp. 41-84)
16. 「壁の街・文字の音——佐伯祐三」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第6回『アステイオン』第44号 TBSブリタニカ 1997年4月、pp. 224-271)
17. 「物語られた〈時代〉——金子光晴『ねむれ巴里』」 (連載「パリ・1930年代の光と影」第7回 『アステイオン』第45号 TBSブリタニカ 1997年7月、pp. 230 - 250)
18. 「貧困という制度——オーウェル『パリ・ロンドンどん底生活』」 (筑波大学文芸・言語学系『文藝言語研究—文藝編』第33巻、1998年3月、pp. 119-152)

19. 「クロス・ジャンル研究の現在——比較芸術論の新たな地平」 (東大比較文学会『比較文学研究』第74号 1999年7月、pp. 26-38)
20. 「神話の縁に——ドアノー／サンドラール『パリ郊外』」 (東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻『超域文化科学紀要』第5号 2000年7月、pp. 66-101)
21. 「パリ写真集における言葉と映像——イジス／プレヴェール『春の大舞踏会』」 (東大比較文学会『比較文学研究』第77号 2001年2月、pp. 64-82)
22. 「まなごしの倫理——報道写真の境界と出版」 (『文学』岩波書店、2004年1月、pp. 97-102)
23. 「1900年日仏文化交差史への新視界——未公開資料『パンテオン会雑誌』の位相」 (東大比較文学会『比較文学研究』第83号 2004年3月、pp. 17-36)
24. 「白秋散文の領界——「わが生ひたち」から「満州雑感」へ」 (『国文学 解釈と鑑賞——特集 北原白秋の世界』至文堂、2004年5月、pp. 168-173)
25. 「明治・大正美術批評の転換期—ラスキン・岩村透・ボードレール」 (『ラスキン文庫便り』第58号、(財)ラスキン文庫、2010年3月、pp. 7-12)
26. 「美術編輯者・坂井犀水の軌跡——初期社会主義運動と明治期美術界」 (『超域文化科学紀要』第18号、2013年11月、pp. 265-306)
27. 「美術批評家・岩村透と初期社会主義—大逆事件下の「美術と社会」(上)」 (『思想』岩波書店、2014年5月、pp. 120-156)
28. 「デジタル時代の初版本——岩村透『巴里之美術学生』をめぐって」 (『日本近代文学館年誌—資料探索』第9号、2014年3月、pp. 8-9)
29. 「美術批評家・岩村透と初期社会主義—大逆事件下の「美術と社会」(下)」 (『思想』岩波書店、2014年6月刊行予定、pp. 111-157)
30. 「雑誌『美術新報』改革と岩村透・坂井犀水——大逆事件とポスト印象派の時代に」 (『超域文化科学紀要』第19号、2014年11月刊行予定、pp. ***-***)

H. 論文翻訳

1. スーザン・J. ネーピア「辺境なるアルカディア——大江健三郎の『牧歌』と『反牧歌』」
(株)アイ・ビー・エム広報誌『無限大』第92号 1992年12月22日、pp. 116-125)
(鶴田欣也・平川祐弘編『アニミズムを読む——日本文学における自然・生命・自己』再録
新曜社 1994年1月、pp. 414-439)

I. 辞典・事典項目執筆

1. 『世界から見た日本小事典』（エナジー小事典・第11号）エッソ石油株式会社広報部、
1988年12月1日
2. 『新潮日本人名辞典』 新潮社 1991年3月5日
3. 『週刊朝日百科・世界の文学』第17号 1999年11月7日、朝日新聞社、
(小論文「月下の詩人たち——ヨーロッパ象徴詩と日本近代詩」および文学小事典)
4. 『日本史文献事典』 弘文堂 2003年12月15日

J. その他

- | |
|--|
| <p>J-1 研究ノート</p> <p>J-2 書評</p> <p>J-3 展覧会およびカタログ評</p> <p>J-4 対談・鼎談</p> <p>J-5 エッセイ・コラム</p> |
|--|

J-1 (研究ノート)

1. 「<うれひの花>のありか——金子光晴とベルギー芸術」
(『学燈』 丸善 1997年9月、pp. 36-39)
2. 「パリ・写真集というトポス」(連載 『ふらんす』 白水社)
第1回「都市のグラフィズム——ジェルメーヌ・クルル『メタル』」
(1999年10月、p. 66-69)
第2回「ハンガリーの眼——『アンドレ・ケルテスの見たパリ』」
(1999年11月、pp. 66-69)

第3回「詩のあらわれる時 ブラッサイ『落書き』」

(1999年12月、pp. 66-69)

第4回「神話の縁に ドアノー／サンドラール『パリ郊外』」

(2000年1月、pp. 66-69)

第5回「街路の驚異 ドアノー『ジャック・プレヴェール通り』」

(2000年2月、pp. 66-69)

第6回「ポリフォニーの魔術 イジス/プレヴェール『春の大舞踏会』」

(2000年3月、pp. 66-69)

3. 「キス写真の顛末——パリ写真」とは何か」(国際交流基金 『国際交流』
第88号 2000年7月1日、pp. 36-43)
4. 「写真／都市／文学——パリ研究からの領野」
(『日本近代文学』第71集 2004年10月、pp. 270-276)

J-2 (書評)

1. 「アドリアン・マリノ著『戦う比較文学』頸草書房、昭和63年10月」
(『図書新聞』 1988年12月3日掲載)
2. 「清水茂著『地下の聖堂—詩人片山敏彦』小沢書店、昭和63年10月」
(『図書新聞』 1989年2月25日掲載)
3. 「現代の古典—ブラッサイ『1930年代秘密のパリ』」
(『アステイオン』第33号 TBSブリタニカ、1994年7月、pp. 173-177)
4. 「松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』(世界思想社)
佐々木英昭編『異文化への視線——新しい比較文学のために』(名古屋大学出版会)」
(日本比較文学会『比較文学』第39巻 1997年3月、pp. 143-148)
5. 「宇佐美承著『新宿中村屋 相馬黒光』集英社 1997年」
(『日本経済新聞』1997年11月30日、朝刊)
6. 「大久保喬樹『森羅変容——近代日本文学と自然』小沢書店 1996年」
(『日本近代文学』第58集 1998年5月、p. 212)
7. 「堀江敏幸『おばらばん』青土社 1998年」(『東京新聞』1998年8月23日、朝刊)

8. 「良質なカタログは知の宝庫——『山下りんとその時代』展ほか」
（『ことし読む本・いち押しガイド99』 メタローグ 1998年12月、pp. 128-129）
9. 「忘却の淵から——P. モディアーノ『1914年パリの尋ね人』／W. ベンヤミン『写真小史』」
（『言語』 1999年1月、pp. 108-109）
10. 「私の○○」（新刊書評）第1回-第19回 （『朝日新聞』 日曜朝刊：
1999年 4/25, 6/6, 7/11, 8/22, 9/26, 10/31, 12/5,
2000年 1/23, 3/5, 4/9, 5/14, 6/18, 7/23, 9/3, 10/8, 11/12, 12/17,
2001年 2/4, 3/11）
11. 「西への願望——S. ドラクリッチ『カフェ・ヨーロッパ』／町田純『イスタンブールの占い
ウサギ』」（『言語』 大修館書店、1999年7月、pp. 120-121）
12. 「対話をはじめめるために——鷺田清一『「聴く」ことのカ —— 臨床哲学試論』」
（『教員養成セミナー』時事通信社 1999年12月号、p. 78）
13. 「ヨーゼフ・ロート小説集2」（『信濃毎日新聞』 1999年11月7日、朝刊）
14. 「パリ研究の昨今——バルザック『人間喜劇セレクション』／ゾラ『制作』」
（『言語』 大修館書店 2000年1月、pp. 120-121）
15. 「沈黙を強いる映像——ジョセフ・クーデルカ『カオス』」
（『言語』 大修館書店 2000年7月、pp. 110-111）
16. 「私市保彦著『フランスの子どもの本（白水社）』」
（『比較文学研究』第80号、2002年8月、pp. 134-139）
17. 「本の本——わたしの一冊」（『本とコンピュータ』2003年秋号[第2期9号]、
2003年9月、pp. 68-69）
18. 「私の3冊——読書家アンケート」（『日本経済新聞』2003年12月21日、朝刊）

J-3（展覧会およびカタログ評）

1. 「ウジェーヌ・アジェ回顧展」評（『東京人』 都市出版 1998年11月号、p. 145）
2. 「薩摩治郎八と巴里の日本人画家たち」展（東大比較文学会『比較文学研究』第74号、
1999年8月、pp. 134-139）

J-4 (対談・鼎談記録)

1. 「座談会——東京を読む」 (鼎談—今橋×鈴木博之、佐々木幹郎) (『東京人』 都市出版 1994年4月、pp. 14-23)
2. 「日本を生きる外国人1. ピーター・タスカ」 (対談) (『アステイオン』 第33号、TBSブリタニカ、1994年10月、pp. 222-229)
3. 「日本を生きる外国人2. ジョニー・ハイマス」 (対談) (『アステイオン』 第35号、TBSブリタニカ 1995年1月、pp. 238-245)
4. 「日本を生きる外国人3 ジョン・海山・ネプチューン」 (対談) (『アステイオン』 第36号、TBSブリタニカ 1995年4月、pp. 238-245)
5. 「日本を生きる外国人4 蔡国強」 (対談) (『アステイオン』 第37号 TBSブリタニカ 1995年7月、pp. 252-261)
6. 「フレームの外側の現実 現代世界を斬ること」 (対談：大石芳野×今橋) (『国際交流』 国際交流基金 第88号 2000年7月号、pp. 2-11)
7. 「「サッカー」から生まれる写真、文化」 (対談：宇都宮徹壱×今橋) (『国際交流』 国際交流基金 第88号 2000年7月号、pp. 78-86)
8. 「写真を語る」 (対談：大竹昭子×今橋)
(『アサヒカメラ』 朝日新聞社 2003年9月号、pp. 202-204)
9. 「先人たちの足跡から学ぶ」 (対談：四方田犬彦×樺山紘一×今橋)
(『国際交流』 国際交流基金第101号 2003年10月号、pp. 2-11)
10. 「カルティエ=ブレッソンの素顔を語る」 (対談—石原悦郎×今橋映子)
(『日本写真協会会報』 第419号 2004年11月、pp. 2-7)

J-5 (エッセイ・コラム)

1. 「ピエロのいる街——北原白秋『東京景物詩』再読」
(『東京人』 都市出版 1993年 12月、pp. 80-87)
2. 「巻頭言——異文化理解について」 (日本アイ・ビー・エム広報誌『無限大』 1994年4月、p. 1)

3. 「渋沢・クロード賞を受賞して」 (日仏会館 *Nouvelles* [通信] 1994年7月、pp. 4-5)
4. 「古くて新しい領界—近代日本文学とパリ」
(日本近代文学会『日本近代文学』第51集 1994年10月、pp. 225-226)
5. 「文明の光—岩倉使節団の見たパリ」 (『うえの』第426号 1994年10月、pp. 17-19)
6. 「再考すべき「パリ神話」」 (『フォーサイト』第11号 1994年11月、pp. 101)
7. 「運命の女 パリの魔力にご用心」 (トラベル・メモワール⑤)
(『シエスタ』春号 1995年4月、pp. 7-9)
8. 「学際研究と若者たち」 (コラム<経線>第1回) (『図書新聞』 1996年2月10日)
9. 「俳句の詩学」 (コラム<経線>第2回) (『図書新聞』 1996年2月17日)
10. 「内なる文化の可能性」 (コラム<経線>第3回) (『図書新聞』 1996年2月24日)
11. 「<自筆原稿>のゆくえ」 (コラム<経線>第4回) (『図書新聞』 1996年3月2日)
12. 「壁のことば」 (巻頭エッセイ) (『言語』 大修館書店 1996年12月、pp. 2-3)
13. 「消灯の一瞬」 (巻頭エッセイ) (『中央公論』 中央公論社 1997年7月、pp. 29-31)
14. 「フランス国立図書館の変貌—未来から過去へ」
(『日本近代文学館』 第159号 1997年9月15日、p. 5)
15. 「知の呪縛圏—時に沿って」 (『東京大学教養学部報』第420号 1998年5月13日、p. 7)
16. 「パリ・1930年代の光と影」 (巻頭エッセイ) (『外交フォーラム』 第120号 1998年7月、p. 9)
17. 「知の情熱のありか」 (『月刊Keidanren』 1998年10月、pp. 62-63)
18. 「フランスという未来システム」
(『国際交流』 国際交流基金、第85号 1999年10月、pp. 41-43)
19. 「アジア芸術への新視界—比較文学・比較文化研究室シンポジウム報告」 (『超域文化科学紀要』 東京大学大学院 2000年5月、pp. 4-7)

20. 「21世紀を拓く比較文化——「異質性」の中で生きる私たち」
(『信濃毎日新聞』2001年1月31日、朝刊)
21. 「文学・美術展という試み」 (『美術博物館ニュース』東京大学教養学部、第32号、
2002年2月20日、pp. 2-3)
22. 「パリ憧憬展に寄せて——高知との意外な関係」 (『高知新聞』2002年3月7日、朝刊)
23. 「語りえぬもののために」 (『群像』講談社、2002年6月号、pp. 390-391)
24. 「たかがガイド・されどガイド——本と美術展への道しるべ」
(『東京大学教養学部報』2002年6月5日、p. 3)
25. 「高知とパリを結ぶ縁——蘇る岩村透」 (巻頭エッセイ) (高知県立文学館ニュース「藤並の森」
第17号、2002年7月、p. 1)
26. 「留学って何？」 (『東京大学新聞』2003年6月3日号)
27. 「愉しみから研究まで——知の越境時代の展覧会カタログ」
(『UP』東京大学出版会 2002年7月、pp. 8-13)
28. 「展覧会カタログを熱く語れば・・・」 (巻頭エッセイ)
(『東京人』都市出版、2003年9月号、p. 9)
29. 「展覧会カタログ批評の可能性」 (『東京大学教養学部学部報』2003年10月8日、p. 1)
30. 「知の越境時代のカタログ批評 『展覧会カタログの愉しみ』紹介」 (『アートドキュメンテー
ション通信』第58号、2003年7月25日、pp. 17-18)
31. 「久保田米斎への新たな光」 (『日本近代文学館』第198号、2004年3月15日、p. 6)
32. 「ロラン・バルト展に寄せて——駒場の美博新時代へ」
(『東京大学教養学部報』2004年4月1日、p. 8)
33. 「今月の表紙」 (写真監修とエッセイ) (『ふらんす』白水社 2004年4月-2005年3月、全12回)
34. 「1900年パリ・日本人留学生の群像 —— 旅愁と使命のはざまに」

(『交詢雑誌』第472号 2004年4月20日、pp. 3-12)

35. 「パリの本屋にて」 (『PHASE (電源開発)』第132号 2004年4月15日、p. 20-21)

36. 「パリに見る海外の魅力」 (『東京大学新聞』2004年7月13日) (インタビュー)

37. 「パリ留学100年前の交遊録——パンテオン会の回覧雑誌を翻刻」
(『日本経済新聞』2004年7月27日朝刊)

38. 「百年前の留学生たち——『パンテオン会雑誌』の公刊に寄せて」 (仏文) (『パリ日本文化会館
図書館ニュースレター』2004年特別号、p. 1)
« Cerle d' étudiants japonais à Paris en 1900 », *La Lettre de la Bibliothèque, Maison de
la culture du Japon à Paris*, 2004, p.1.

39. 「人文共同研究の醍醐味〈1〉『パンテオン会雑誌』公刊によせて」
(『東京大学教養学部報』482号、2005年4月6日)

40. 「キス写真から郊外まで——ロベール・ドアノーとパリ写真」
(『静岡日仏協会会報』第4号 2005年10月、pp. 2-3)

41. 「都市幻景〈十選〉」
(『日本経済新聞』2009年10月12日朝刊～10月28日朝刊 全10回連載)

42. 「死者の在り処」
(『こころ』第4号、平凡社、2011年12月、p. 8-10)

K. 学会発表、学会司会、講演等

- | |
|--|
| K-1. 所属学会発表および招待学会発表
K-2. 講演
K-3. 学会関係司会 |
|--|

K-1 (所属学会発表および招待学会発表)

1. 「乖離の様相——高村光太郎のパリ」 (発表)
(東京大学比較文学研究会 1987年3月20日 於：八王子セミナーハウス)

2. 「エトランゼエの眼——藤村『仏蘭西だより』のパリ」 (発表)
(日本比較文学会第49回全国大会 1987年6月21日 於:同志社女子大学)
3. 「徒花の都——金子光晴『ねむれ巴里』論」 (発表)
(日本比較文学会東京支部大会 1988年10月15日 於:成城大学)
4. 「異郷としての子供時代——北原白秋『わが生ひたち』」 (発表)
(日本比較文学会第51回全国大会 1989年6月18日 於:立教大学)
5. « La dèche du Paris des années 30 » (発表・仏語)
(第13回国際比較文学会東京大会 1989年8月25日 於:青山学院大学)
6. 「白秋のピエロ——世紀末アメリカのパリ案内小説の波及と詩的イメージの形成」
(シンポジウム発表)
(日本比較文学会第53回全国大会 1991年11月8日 於:福岡女学院大学)
7. 「19世紀パリ・ボヘミアニズムと外国人画家——岩村透『巴里の美術学生』
挿絵原本の発見」 (発表) (明治美術学会例会 1992年6月13日 於:早稲田大学)
8. 「貧困と街路の詩学・1930年代のパリ——ミラー、オーウェル、ブラッサイ、光晴」
(発表) 日本比較文学会東京支部例会 1992年11月21日 於:和敬塾)
9. 「都市論者藤村——パリ滞在と公園論の位相」 (招待発表)
(福岡ユネスコ協会第8回日本研究国際セミナー 1994年9月6日 於:メルパルク福岡)
10. 「比較文学の現在と未来——クロス・ジャンル研究の可能性」 (招待シンポジウム発表)
(大阪大学文学部 1997年12月19日 於:大阪大学)
11. 「視覚芸術と文学——両大戦間パリにおける写真と文学」 (シンポジウム発表)
(日本比較文学会東京支部大会 1998年10月24日 於:明星大学)
12. 「パリ写真集における「ことば」と「映像」——『イジス/プレヴェール
春の大舞踏会』」 (発表)
(日本比較文学会・東京支部9月例会 2000年9月16日 於:東京工業大学)
13. 「詩人とその妻——光太郎/智恵子」 (国際シンポジウム発表)
(第2回 日韓学術交流シンポジウム 2001年7月14日 於:東京大学教養学部)

14. 「〈パリ写真集〉というトポス——イジス／プレヴェール『春の大舞踏会』」 (発表)
(「テキストとイメージ」セミナー 2001年12月1日 於：日仏会館)
15. 「モダニズムとジャーナリズムの狭間に——20世紀都市写真の境界性」
(シンポジウム発表) (日仏美術学会、2001年12月22日 於：日仏会館)
16. 「街路の思考——パリ表象と外国人芸術家」 (招待発表)
(第43回公共哲学京都フォーラム 2003年1月12日 於：京都リーガロイヤルホテル)
17. 「始まりとしてのアジェ——欧米写真〈史〉の記述と言説」 (招待シンポジウム発表)
(日本英文学会第75回全国大会・Symposia「写真の言説、言説としての写真」、
2003年5月25日 於：成蹊大学)
18. 「カタログ批評の可能性——1920年代パリを語るということ」
(シンポジウム発表) 【シンポ企画責任】
(比較文学比較文化フォーラム「知の共有財産・展覧会カタログの現在」
東京大学比較文学比較文化研究室主催 2003年7月5日 於：東京大学教養学部)
19. 「パリ映像の世紀」 (ワークショップ発表—岡村民夫×谷昌親×今橋映子)
(日本フランス語フランス文学会2005年春季大会 2005年5月28日 於：立教大学)
20. 「写真における雑誌研究の動向」 (ワークショップ発表)
(比較芸術フォーラム 竹内信夫先生を囲むワークショップ<雑誌メディアにおける視覚文化>
2006年11月10日 於：東京大学駒場キャンパス)
21. 「日本人のパリ写真—福原信三とピクトリアリスムの転換期」 (国際シンポジウム発表)
(国際シンポジウム「日仏交流の150年」主催：日仏会館、 2008年11月23日 於：日仏会館)
22. 「展覧会カタログの大学(院)の美術教育」 (学会シンポジウム招待発表)
(『展覧会カタログ総覧』刊行記念シンポジウム
「いま、あらためて展覧会カタログを見直す」 主催：アート・ドキュメンテーション学会、
2009年3月20日 於：和光大学)
23. 「明治・大正期美術批評の転換期—ラスキン・岩村・ボードレール」 (招待基調講演)
(ラスキン文庫25周年記念シンポジウム「ラスキンと明治美術」
主催：ラスキン文庫、 2009年9月26日 於：中央大学駿河台記念館)

24. 「隠れた援助者の見た夢と〈世界周遊奨学金〉」（招待シンポジウム発表）
 （渋沢栄一記念財団シンポジウム「渋沢栄一とアルベール・カーン 日仏実業家の交流と社会貢献」 於：日仏会館、2010年3月21日）
25. 「写真を語るとは何か——報道写真研究と展覧の新動向」（ワークショップ発表）
 （ワークショップ「20世紀フランス文学と写真」主催：東京大学文学部フランス文学研究室、2010年11月6日 於：東京大学本郷キャンパス法文2号館中二階・教員談話室）
26. 「大学（院）の美術研究と展覧会カタログ」（シンポジウム招待講演）
 （シンポジウム「“展覧会カタログ”を斬る」主催：国立新美術館、2011年12月4日 於：国立新美術館3階講堂）
27. 「プレヴェールと映画——『天井桟敷の人々』再発見」（コメンテーター）
 （講演会「プレヴェールと映画——『天井桟敷の人々』再発見」主催：東京大学文学部フランス語フランス文学研究室、2013年5月10日 於：東京大学本郷キャンパス文学部2号館第1教室）

K-2（講演）

1. 「国際化とは何か」
 （JIT研究所年次総会 1994年7月8日 於：ホテル・オークラ）
2. 「1930年代パリと外国人芸術家」
 （神奈川県民アカデミア（都市と人間） 1994年11月13日 於：鎌倉中央公民館）
3. 「明治日本における美術批評とラスキン——岩村透を中心に」
 （ラスキン文庫・ラスキン連続研究講座 1995年5月13日 於：国立教育会館）
4. 「明治期青年画家たちの西欧」
 （経団連フォーラム「人間と文化」 1995年8月10日 於：経団連ゲストハウス）
5. 「企業戦略と芸術の間 ——資生堂・福原信三のパリ」
 （日仏会館・日仏会館講座 1995年10月19日 於：日仏会館）
6. 「1. ラ・ボエームの神話と現実——画家生たちの青春」
 「2. ボヘミアニズムの波及——明治期日本の仕掛人」
 （学習院女子短期大学セミナー 1996年6月26日・7月3日 於：学習院女子短期大学）
7. 「幻のパリ計画——明治初期官僚の夢」

- (ロータリー (東京南) 卓話 1996年8月29日 於: 東京会館)
8. 「日本人画家のパリ」
(女子百華会 (新日本奨学金) 1996年12月6日 於: 教育会館)
9. 「岩村透——明治期東京ボヘミアニズムの仕掛人」 (東京史遊会 1996年12月12日)
10. 「詩人の画——金子光晴」
(ロータリー (東京) 卓話 1997年7月9日 於: 帝国ホテル)
11. 「藤村とフランス——〈都市を読む〉作家・藤村」
(明治学院大学言語・文化研究所 1997年11月26日 於: 明治学院大学)
12. 「壁の詩学・1930年代パリ——佐伯祐三新考」
(東京大学比較文学・比較文化研究室 新学期講演会 1998年4月8日)
13. 「パリ——街路の詩学」 (長野市民教養講座 1998年7月10日 於: 長野メルパルク)
14. 「壁の詩学——佐伯祐三新考」 (東京史遊会 1998年7月24日)
15. 「ブラッサイとは誰か——1930年代パリ表象と文学／写真」
(慶應義塾大学小泉信三記念講座 1998年11月10日 於: 慶応大学三田校舎)
16. 「ブラッサイとは誰か——1930年代パリ表象と文学／写真」
(明治学院大学言語・文化研究所 1998年11月24日 於: 明治学院大学)
17. « La France et le Japon(1898-1998) » (国際シンポジウム招待発表)
(アルベール・カーン美術館、1998年11月28日 於: 日仏会館)
18. 「ボヘミアニズムと19世紀のヨーロッパ」 (招待講演)
(社会思想史学会・全国大会 1999年10月9日 於: 愛知大学)
19. 「詩人とその妻——光太郎／智恵子・光晴／三千代」
(東京大学第9回公開講座〈相性〉 2000年4月22日 於: 東京大学安田講堂)
20. 第3回「学習院の継承すべき伝統と文化」 (座談会)
(2000年11月25日 於: 学習院大学)

21. 「日本人のパリ体験——過去から未来へ」 (桜友会栃木支部講演会 2001年8月25日)
22. 「金子光晴——アジア放浪の意味」
(慶應義塾大学・極東証券寄付講座<外から見た日本Ⅱ> 2001年11月13日)
23. 「日本文学者のパリ体験——岩村透を中心に」
(高知県立文学館「パリ憧憬」展 2002年3月17日 於：高知県立文学館)
24. 「佐伯祐三——パリと東京」
(日本近代文学館・夏の文学教室「東京をめぐる物語」2003年7月30日、於：よみうりホール)
25. 「重森弘淹写真評論賞受賞記念講演——パリ写真 36のイマージュ」
(2003年11月23日 於：東京総合写真専門学校)
26. 「使命と旅愁のはざまに——1900年パリ万博と日本人留学生たち」
(東京大学総合図書館特別展示「博覧会から見えるもの」記念連続講演会
2003年11月25日 於：東京大学総合図書館)
27. 「1900年パリ・日本人留学生の群像——旅愁と使命のはざまに」
(交詢社常例午餐会 2004年2月6日 於：三井本館)
28. 「都市写真の魅力ーパリと外国人芸術家たち」
(都市政策懇話会 2004年3月26日 於：名古屋都市センター)
29. 「パリ写真—36のイマージュ」 (日仏文化講座第2回、「学問の最前線—渋谷・クロード賞受賞者の現在」 2004年5月21日 於：日仏会館)
30. 「写真と異文化理解—21世紀の対話のために」 (2004年度東京大学大学院総合文化研究科・教養学部公開講座「高校生のための金曜特別講座」 2004年7月2日 於：東京大学教養学部)
31. 「決定的瞬間という罫——カルティエ=ブレッソンとパリ写真」
(大阪芸術大学博物館展覧会レクチャー「アンリ・カルティエ=ブレッソン」、2004年9月18日 於：大阪芸術大学博物館)
32. 「On Reading：『本』の底力」 (シンポジウム 宮下志朗×鹿島茂×今橋映子)
(「マンスリーセミナー『書物復権』オープニングセッション」2005年4月2日
於：紀伊国屋ホール)

33. 「1900年パリ・日本人留学生たちの交遊— 新資料公刊の成果から」
(日仏会館特別講演会 2005年4月22日 於：日仏会館)
34. 「ブラッサイとパリ」 (カフェ+ギャラリートーク—アラン・サヤグ×今橋映子)
(東京都写真美術館ワークショップ2005、2005年8月6日 於：東京都写真美術館)
35. 「アール・デコの時代——パリ」 (「アール・デコ」展記念セミナー 2005年8月20日
於：福岡市美術館)
36. 「キス写真から郊外まで——ロベール・ドアノーとパリ写真—」
(「ロベール・ドアノー」展講演会 2005年10月15日 於：グランシップ)
37. 「語りえぬもののために——アトライティングの先人たち」
(第1回高校生のためのアトライター大賞授賞式記念講演) (筑波大学大学院人間総合科学
研究科芸術学専攻 2006年1月28日 於：つくば国際会議場)
38. 「そしてパリへ——金子光晴の都市表象と30年代邦人租界」
(中原中也の会第10回研究集会 2006年6月10日 於：日本近代文学館)
39. 「パリに死す——両大戦間パリと外国人芸術家の運命」
(「巴里憧憬」展記念講演会 2006年11月25日 於：名古屋市美術館)
40. 「エコール・ド・パリと外国人芸術家たち」
(「キスリング」展講演会 2007年7月7日 於：茨城県立近代美術館)
41. 「1920年代の都市パリと郊外——佐伯祐三の眼」
(「没後80年佐伯祐三—鮮烈なる生涯」展 美術講演会 2008年8月2日 於：三重県立美術館)
42. 「19世紀都市パリの新たな表現——版画家たちの挑戦」
(ブリヂストン美術館土曜講座「パリと近代芸術家たち」 第4回講座
2008年11月5日 於：ブリヂストン美術館)
43. 「パリに死す——両大戦間パリと外国人芸術家の運命」
(大原美術館 第35回美術講座 2009年8月1日、 於：大原美術館)
44. 「1920年代の都市パリと郊外——佐伯祐三の眼」
(関西医科大学第13回のぞみ会講演 2010年6月5日 於：リーガロイヤルホテル大阪)

45. 「小林千古とパリの仲間たち——パンテオン会の友情と美術史的意味」
 (はつかいち美術ギャラリー「小林千古没後100年 小林千古と1900年パリ・パンテオン会」展
 記念講演会 2011年11月12日 於：廿日市市役所7階会議室)
46. 「比較文学・比較文化研究の現在」
 (東京史遊会 2013年4月30日 於：如水会館)
47. 「三崎を愛した美術史家——岩村透 (1870-1917) とその時代」
 (三浦市本瑞寺講演会 2013年6月14日 於：本瑞寺)

K-3 (学会関係司会)

1. 「アジア芸術への新視界——文学・映画・絵画」 (シンポジウム司会) 【シンポ企画責任】
 (東京大学大学院比較文学比較文化研究室 2000年1月21日 於：東京大学教養学部)
2. 「バルザック——テキスト生成の契機」 (シンポジウム司会)
 (日本フランス語フランス文学会関東支部大会 2000年3月11日 於：昭和女子大学)
3. 「東アジア随筆文学の伝統——金素雲の受け継いだもの」 (国際シンポジウム総合司会)
 (東京大学大学院比較文学比較文化研究室 2000年11月11日 於：東京大学教養学部)
4. 「<造形芸術によって詩化すること>—19世紀の諸相：マラルメ、ランボー、ヴェルレーヌ」
 (セミナー仏語司会) (東京大学大学院COE連続講演会「テキストとイメージの共生」
 2003年11月21日 於：東京大学駒場キャンパス10号館3階会議室)
 « Poétiser par art plastique au XIX^e siècle : Mallarmé, Rimbaud, Verlaine »
 (Dr. Anne-Marie Christin)
5. 「異文化の同化と異化」 (全体討議司会)
 (日韓比較文学シンポジウム 2005年10月14日 於：東京大学駒場キャンパス18号館ホール)

L. 展覧会企画監修

1. 「パリ憧憬——日本文学者の〈フランス〉体験」展
 (日本近代文学館、2000年/高知県立文学館、2002年)

M. 受賞歴

1. 第16回サントリー学芸賞〔文学・芸術部門〕
『異都憧憬 日本人のパリ』に対して（1993年度）
2. 第11回渋谷・クロードル賞（ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞）
『異都憧憬 日本人のパリ』に対して（1993年度）
3. 第9回重森弘淹^{えん}写真評論賞
『〈パリ写真〉の世紀』に対して（2003年度）
4. 第3回島田謹二記念学藝賞
『〈パリ写真〉の世紀』に対して（2004年度）
5. 日本写真協会賞 学芸賞
『〈パリ写真〉の世紀』に対して（2004年度）